

1 単元・教材

資料を用いた文章の効果を考え、それをいかして書こう 「固有種が教えてくれること」
 「グラフや表を用いて書こう」(光村図書5年)
 表現の工夫をとらえて読み、それをいかして書こう 『鳥獣戯画』を読む
 「日本文化を発信しよう」 (光村図書6年)

2 単元について

(1) 単元の位置とねらい

(第5学年)

これまでに子供たちは、4年の「世界にほこる和紙」の学習で、まとまりごとに中心となる語や文を確かめ、要約することを、「伝統工芸のよさを伝えよう」の学習で、理由や事例を挙げて考えを伝える学習をしてきている。さらに、5年の「新聞を読もう」の学習では、書かれた目的や対象を踏まえて、知りたいことにあった新聞や記事を選んで読む学習をしてきている。

本単元は、「読むこと」の説明的な文章教材「固有種が教えてくれること」と、「書くこと」の教材「グラフや表を用いて書こう」で構成される複合教材である。指導の重点は、図表やグラフの扱い方にあり、特に気を付けたいグラフなどの読み取りについては、情報「統計資料の読み方」で取り上げている。図表と文章との対応を読み取ったり、それらの資料の効果を考えたりするを通して、自分の表現にも生かすことを主なねらいとしている。

ここでの学習は、5年「想像力のスイッチを入れよう」での、事例と意見の関係を押さえて読み、自分の考えを明確にして伝え合う学習へと発展していく。

(2) 指導の基本的な立場

「固有種が教えてくれること」は、文章以外の資料を用いた効果を考えながら読む教材、「グラフや表を用いて書こう」は目的に合った資料を選び、資料と文章とを対応させて書く教材である。

そこで、【意欲付け】の学習場面では、6年生と共通の課題を提示したのち、題材を「奄美の魅力を伝えるパンフレット作り」とし、個別のテーマを決め、全体の学習計画と、個別の学習計画を立てさせる。

【習得】の学習場面では、資料の効果的な使い方や統計資料の読み方について知り、モデル文を使って、資料を用いた意見文の書き方や文章構成についてとらえさせる。【活用】の学習場面では、習得した技能を生かし、資料を用いて奄美の現状を伝える意見文を書かせ、ペアで、分かりやすく説得力のある意見文となっているか確認させたい。【共有】の学習場面では、「奄美の魅力を伝えるパンフレット作り」という単元終末の言語活動を通して、文章に対する感想や意見を伝え合い、資料を効果的に用いて書くことができたかを振り返らせる。

(第6学年)

これまでに子供たちは、5年の「固有種が教えてくれたこと」の学習で、文章以外の資料を用いた効果を考えながら読むことを、「グラフや表を用いて書こう」の学習で、目的に合った資料を選び、資料と文章とを対応させて書くことを学習してきている。さらに、「利用案内を読もう」の学習で、必要などころを選んだり、複数の情報を組み合わせて考えたりする学習をしてきている。

本単元は、「読むこと」の文章教材『鳥獣戯画』を読むと、「書くこと」の教材「日本文化を発信しよう」で構成される複合教材である。筆者の考え方や資料や言葉の使い方の工夫をとらえたり、伝えたいことに合わせた構成を考えたりするを通して、絵や写真の使い方、豊かな表現などをほかの場面でも活用できるようにすることを主なねらいとしている。

ここでの学習は、6年「メディアと人間社会・大切な人と深くつながるために」での、論の展開や表現の仕方に着目して複数の考えを読み、考えを交流する学習へと発展していく。

『鳥獣戯画』を読むは、筆者の考え方や資料や言葉の使い方の工夫をとらえる教材、「日本文化を発信しよう」は、表現の工夫を生かして、伝えたいことに合わせて構成を考える教材である。

そこで、【意欲付け】の学習場面では、5年生と共通の課題を提示したのち、題材を「奄美の魅力を伝えるパンフレット作り」とし、個別のテーマを決め、全体の学習計画と、個別の学習計画を立てさせる。

【習得】の学習場面では、表現の工夫の仕方や資料を使う時の注意点を確認し、モデル文を使ってパンフレットの構成や割り付け、表現の工夫についてとらえさせる。【活用】の学習場面では、習得した技能を生かし、表現を工夫して奄美の魅力を伝えるパンフレットを書かせ、ペアで分かりやすく興味のわくパンフレットとなっているか確認させたい。【共有】の学習場面では、「奄美の魅力を伝えるパンフレット作り」という単元終末の言語活動を通して、表現の工夫に対する感想や意見を伝え合い、魅力的なパンフレットを書くことができたかを振り返らせる。

(3) 子供の実態

国語科の学習に関する調査結果は以下のとおりである。 (実施日 R5. 7. 19)

調査項目	第5学年(6人)		第6学年(5人)	
	正答 3人	誤答 3人	正答 2人	誤答 3人
① 目的に合った資料を選び、資料と文章とを対応させて書く。			正答 3人	誤答 2人
② 筆者の考え方や資料や言葉の使い方の工夫をとらえながら読む。			正答 4人	誤答 1人
③ 目的に応じて構成を考え、表現を工夫して書く。	正答 1人	誤答 5人		
④ 文章以外の資料を用いた効果を考えながら読む。	正答 2人	誤答 4人		
⑤ 分かることと考えたことを区別して書く。	好き 4人	嫌い 2人	好き 3人	嫌い 2人
⑥ 国語科の学習。	好き 6人	嫌い 0人	好き 5人	嫌い 0人
⑦ 国語科「読むこと」の学習。	好き 5人	嫌い 1人	好き 2人	嫌い 3人
⑧ 国語科「書くこと」の学習。	好き 4人	嫌い 2人	好き 5人	嫌い 0人
⑨ 国語科における「意欲付け」の学習場面。	好き 4人	嫌い 2人	好き 5人	嫌い 0人
⑩ 国語科における「習得」の学習場面。	好き 4人	嫌い 2人	好き 5人	嫌い 0人
⑪ 国語科における「活用」の学習場面。	好き 4人	嫌い 2人	好き 5人	嫌い 0人
⑫ 国語科における「共有」の学習場面。	好き 2人	嫌い 4人	好き 4人	嫌い 1人
<p>5年生の全体的な傾向は以下のとおりである。</p> <p>《学習内容について》</p> <p>④・⑤より、文章以外の資料を用いた効果を考えながら読むことや、分かったことと考えたことを区別して書くことが身に付いていない子供が半数以上いることが分かった。</p> <p>《複式学級における国語科の学習について》</p> <p>⑥⑦⑧より、「読むこと」の学習は全員が好きであるが、国語科の学習や「書くこと」の学習に対し、「真剣に取り組んでもよく分からないことがある」「文をまとめるのが苦手」「何を書けばいいか分からない時がある」と苦手意識をもっている子供が数人いることが分かった。</p> <p>⑨より、単元のゴールや単元のめあて、学習計画を立てる学習場面に対し、「考えが思い浮かばないときがあって、学習が進まない」と感じている子供が数名いることが分かった。</p> <p>⑩より、読み方や書き方、話し方や聞き方を習得する学習場面に対し、「難しい」「学んだポイントをまとめるのが苦手」と感じている子供が数人いることが分かった。</p> <p>⑪より、習得したことをもとに活用する学習場面に対し、「自分たちで学習を進めていくのは緊張する」「途中で止まってしまう」と、不安をもっている子供が数人いることが分かった。</p> <p>⑫より、単元のゴール(言語活動)を発表したり学習を振り返ったりする学習場面に対し、「思い浮かばない」「発表が苦手」「考えるのが苦手」と多くの児童が苦手意識をもっていることが分かった。</p>	<p>6年生の全体的な傾向は以下のとおりである。</p> <p>《学習内容について》</p> <p>①より、目的に合った資料を選び、資料と文章を対応させて書くことが身に付いていない子供が多いことが分かった。</p> <p>《複式学級における国語科の学習について》</p> <p>⑥⑦⑧より、「読むこと」の学習は全員が好きであるが、国語科の学習や「書くこと」の学習に対し、「真剣に取り組んでもよく分からないことがある」「文をまとめるのが苦手」「何を書けばいいか分からない時がある」と苦手意識をもっている子供が数人いることが分かった。</p> <p>⑨より、単元のゴールや単元のめあて、学習計画を立てる学習場面に対し、「自分たちで進められる」「みんな考えて楽しい」と全員が感じていることが分かった。</p> <p>⑩より、読み方や書き方、話し方や聞き方を習得する学習場面に対し、「新しいことを知るの楽しい」「どんな方法があるのか気になる」と全員が感じていることが分かった。</p> <p>⑪より、習得したことをもとに活用する学習場面に対し、「より自信がつく」「自分たちのペースで進められる」「復習になる」と全員が感じていることが分かった。</p> <p>⑫より、単元のゴール(言語活動)を発表したり学習を振り返ったりする学習場面に対し、「思い浮かばないことがある」と感じている子供がいることが分かった。</p>			

(4) 指導上の留意点

複式で異学年一緒に学習することについて、両学年とも刺激を受けている。そこで、学習内容を学年間で可能な限りそろえて授業を行っていきたい。そうすることで、各時間の「めあて」や「まとめ」だけでなく、自力解決の方法やその結果にも関連性が見いだされ、学習内容の系統性も明らかになり、より一層、異学年の子供同士が協力したり、学び合ったりする複式学級のよさを生かすことができると考える。また、両学年ともガイド学習のよさを感じているものの、国語科の学習においては学習内容が難しかったり、途中で止まってしまったりと苦手意識をもっている子供がいる現状がある。そこで、学習の流れをパターン化し、自分たちで学習を進めていけるようにしていきたい。また、ガイドだけではなく、単元の導入で全員に授業の見通しをもたせることで、全員で協力して授業を進めていくことができるようにしたい。さらに、子供の思考の流れに沿って授業が展開できるように、ガイド学習の充実を図るとともに、1単位時間においても、同時導入・同時終末による「ずらし」なしの学習過程によるガイド学習を行う。そうすることで、同時間接指導の時間をより多く確保し、個別の対応が図れるようにする。

① 複式学級における個別最適な学び

- 「意欲付け」の学習場面においては、「奄美の魅力を伝えるパンフレットを作ろう」という大きなテーマを設定したうえで、伝えたい奄美の魅力からペアやグループを組ませるようにする。また、課題解決の方法や時間、学習ツールなど、個別に計画を立てさせるようにする。

- 「習得」の学習場面においては、課題追究や考えの形成の方法を最適なものを選択できるように、全員で見通しを考え、具体的な解決方法を共有した後に、自分に合った方法を選択し自力解決が図れるようにする。その際、自力解決の手掛かりとして学習支援アプリに既習事項を整理しておいたり、並行読書を並べておいたりする。また、習得した資料を用いた意見文の書き方や表現を工夫したパンフレットの書き方のポイントを学習支援アプリ等でまとめ、活用場面において必要に応じて振り返ることができるようにする。
 - 「活用」の学習場面においては、一人一人の興味・関心に応じた学習活動が展開できるように、単元内の総時間や提出締め切り日はそろえるが、一部自由進度学習とし、その間の学習計画は自分で考えて立てさせ、自己調整力を働かせながら取り組ませるようにする。また、学習が進んでいる子供には、意見文やパンフレットを補強するスライド作り等、発展的に学習に臨めるようにする。
 - 「共有」の学習場面においては、学習の意味を見だし、自分の資質・能力に自信がもてるようにするために、「働かせた国語科の見方・考え方」、「自己の考えの変容とその要因」「次時への意欲」といった3つの視点を意識して振り返らせるようにする。
- ② 複式学級における協働的な学び
- 「意欲付け」の学習場面においては、系統性や関連性を意識して一緒に問題解決を図ることができるように、両学年共通の言語活動を設定する。また、単元を通して身に付けたい力を意識して授業に臨めるように、学年ごとに単元のゴールやめあてを設定させ、そのためにはどんな学びが必要かを考えさせるようにする。
 - 「習得」の学習場面においては、知識及び技能同士を結び付け、考えを広げたり深めたりするために、考えを可視化し、共通点を見つけさせたり、同じ考え同士で類型化させたりする。
 - 「活用」の学習場面においては、異なる考えを組み合わせたり、よりよい学びを生み出すために、協力し合う意識をもたせたりし、自由に対話しながらより説得力のある意見文や、相手に魅力の伝わるパンフレット考えさせていきたい。
 - 「共有」の学習場面においては、学ぶことのよさを実感させるために、両学年同時に学びの振り返りを交流させ、学習の内容の関連性や系統性を捉えさせる。

3 単元の目標及び評価規準

(1) 目標

<ul style="list-style-type: none"> ◎ 情報と情報との関係づけのしかた、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができる。(知(2)イ) ◎ 引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。(思B(1)エ) ◎ 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけたり、論の進め方について考えたりすることができる。(思C(1)ウ) 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えることができる。(思B(1)イ) ◎ 引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫したりすることができる。(思B(1)エ) ◎ 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけたり、論の進め方について考えたりすることができる。(思C(1)ウ) ○ 日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気付くことができる。(知(3)オ)
--	--

(2) 評価規準

第5学年	観点	第6学年
情報と情報との関係づけの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解して使っている。	知識・技能	日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気付いている。
①「書くこと」において、引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。 ②「読むこと」において、目的に応じて文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけたり、論の進め方について考えたりしている。	思考・判断・表現	①「書くこと」において、筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えている。 ②「書くこと」において、引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。 ③「読むこと」において、目的に応じて文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけたり、論の進め方について考えたりしている。
資料を用いながら奄美の現状を正確に伝え説得力のある意見文を書こうとしている。	主体的に学習に取り組む態度	読み手を引き付けることができるように表現を工夫し、奄美の魅力が伝わる分かりやすいパンフレットを書こうとしている。

4 指導計画（第5学年：全11時間，第6学年：全11時間）

	5年 学習活動	6年 学習活動	
意欲付け	<p>1 ゴールの活動と単元のめあてを設定する。</p> <p>① 「令和4年度奄美市幸福度調査アンケート」の結果を見る。</p> <p>② 「奄美群島日本復帰70周年，奄美の魅力を伝えるパンフレットを作ろう」という両学年共通の言語活動を知る。</p> <p>③ モデルのパンフレットから，それぞれの学年で身に付けたい力を明確にする。</p> <p>④ 各学年の単元のゴールと単元のめあてを設定する。</p> <p>㊦ 資料を使って，今の奄美の様子を伝える意見文を書こう。</p> <p>㊧ 資料をどう使えば，自分の考えが伝わる意見文が書けるだろうか。</p> <p>⑤ テーマを決める。</p> <p>評価 目的や意図に応じて，感じたことや考えたことなどから書くことを選んでいる。【思】</p>	<p>㊦ 表現を工夫して，奄美のよさを伝えるパンフレットを作ろう。</p> <p>㊧ どのように表現を工夫すれば，奄美の魅力を伝えることができるだろうか。</p> <p>⑤ テーマを決める。</p> <p>評価 目的や意図に応じて，身の回りの問題の中から書くテーマを選んでいる。【思】</p>	意欲付け
	<p>2 学習計画を立てる。</p> <p>① どのような学習や活動を，どんな順番でするか。</p> <p>② 時間・学習形態・調べ方（調査の目的に合う方法）・学習ツール等はどうするか。</p> <p>ア 筆者の考えを知る。</p> <p>イ 考えを伝えるために，資料を使う良さを学ぶ。</p> <p>ウ 統計資料の読み方や，意見文の書き方を学ぶ。</p> <p>エ 自分の報告することについて調べる。</p> <p>オ 調べたことをもとに，意見文を書く。</p> <p>カ 振り返る。</p> <p>評価 奄美の様子を伝える意見文を書く学習について，見通しをもって学習計画を立てようとしている。【態】</p>	<p>ア 筆者の考えを知る。</p> <p>イ 考えを伝えるための，表現の工夫をする良さを学ぶ。</p> <p>ウ 資料を使う時の注意点や，パンフレットの書き方を学ぶ。</p> <p>エ パンフレットに必要なことについて調べる。</p> <p>オ 構成を考えて，パンフレットを書く。</p> <p>カ 振り返る。</p> <p>評価 パンフレットを書く学習について，見通しをもって学習計画を立てようとしている。【態】</p>	
習得	<p>3 筆者が伝えたいことをとらえ，筆者の考えをまとめる。</p> <p>○ 筆者が伝えたいことは何か，文中の言葉を使って短くまとめる。</p> <p>評価 筆者の考えをとらえ，それを短くまとめることができたか。【思】</p>	<p>3 筆者が伝えたいことをとらえ，筆者の考えをまとめる。</p> <p>○ 筆者が伝えたいことは何か，文中の言葉を使って短くまとめる。</p> <p>評価 筆者の考えをとらえ，それを短くまとめることができたか。【思】</p>	習得
	<p>4 資料を使うことの良さを知る。</p> <p>○ 文章と対応させて使う。</p> <p>○ 筆者の伝えたいことを分かりやすくする使い方。</p> <p>○ 筆者の考えに説得力をもたせる使い方。</p> <p>評価 資料の効果的な使い方について考え，それを生かそうとしている。【思】</p>	<p>4 表現の工夫をする良さを知る。</p> <p>○ 書き出し，文中の言葉の工夫</p> <p>○ 文末の表現の工夫（体言止め・語りかけるように）</p> <p>○ 絵の出し方の工夫</p> <p>評価 表現の工夫について考え，それを生かそうとしている。【思】</p>	
	<p>5 統計資料の読み方を知り，資料を使った意見文の書き方について知る。</p> <p>① 統計資料の読み方を知る。</p> <p>○ 単位やメモリに注意する。</p> <p>○ 調べた時期や対象を確かめる。</p> <p>② モデル文から，資料を使った意見文の文章構成について知る。</p> <p>評価 資料の使い方や，使うときの注意点について理解している。【知】</p> <p>評価 資料を使った意見文の書き方について考え，それを生かそうとしている。【思】</p>	<p>5 資料を使うときの注意点を確認し，表現の工夫を，パンフレットではどう生かすかを知る。</p> <p>① 資料を使う時の注意点を確認する。</p> <p>○ 引用したときの注意点。</p> <p>○ 出典を記す。</p> <p>② パンフレットの例から，パンフレットの構成や割り付け，表現の工夫について知る。</p> <p>評価 資料の使い方や，使うときの注意点について理解している。【知】</p> <p>評価 表現の工夫を用いたパンフレットの書き方について考え，それを生かそうとしている。【思】</p>	
活用	<p>6～10 習得した技能を生かし，自分の課題解決を図る。</p> <p>① 統計資料から分かることや，取り上げる奄美の良さについてまとめる。</p> <p>② 資料を用いた意見文・表現を工夫したパンフレットを書く。</p> <p>③ 共有し，推敲する。</p> <p>評価 目的や意図に応じて，集めた材料を分類したり関係づけたりして，伝えたいことを明確にしている。【思】</p> <p>評価 筋道の通った文章となるように，文章全体の構成や展開を考えている。【思】</p> <p>評価 自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。【思】</p> <p>評価 粘り強く，自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫し，文章を書こうとしている。【態】</p>	<p>単元内自由進度学習</p>	活用
共有	<p>11 パンフレットを読み合い，感想を交流し，学習を振り返る。</p> <p>評価 文章に対する感想を伝え合い，文章を書く学習について振り返り，今後の生活に生かそうとしている。【態】</p>	<p>評価 文章に対する感想を伝え合い，文章を書く学習について振り返り，今後の生活に生かそうとしている。【態】</p>	共有

これからの学習でも，資料を使って，分かりやすく正確に伝えられるといいな。

言葉や文末の表現など工夫して，いろいろなものの魅力を伝えていきたいな。

5 本時（第5学年：4/11，第6学年：4/11）

(1) 目標

○ 資料の効果的な使い方について考え、それを生かして文章を書くことができる。



○ 表現の工夫による効果について考え、それを生かして文章を書くことができる。

(2) 指導に当たって

「つかむ・見通す」の段階では、両学年共通の言語活動及び各学年の単元のゴールとめあてを確認し、必要性をもって学習に取り組めるように意欲付けを図る。「調べる・練り上げる」の段階では、教科書の教材から資料の効果や表現の工夫の効果についてガイドを中心に考えさせ、それぞれの効果を確認し、まとめへつなげる。「生かす・まとめる」の段階では、学習したことを生かして課題に取り組み、学習の定着を図る。また、視覚的に捉えやすいようにロイロノートを活用して振り返りを行い、異学年間の交流を深めていく。

(3) 実際

※ あ：子供の主体的な学習 い：同学年の学び合い う：異学年の学び合い え：積極的な個別対応 (個最)：個別最適な学び (協働)：協働的な学び

指導上の留意点	主な学習活動（第5学年）	過程	位置/時間	過程	主な学習活動（第6学年）	指導上の留意点
あ 必要感をもって課題に取り組めるように、共通のゴール、単元のめあてと単元のゴールを確認する。(協働)	1 単元のゴールと単元のめあてを確認する。 ㊦ 資料を使って、今の奄美の様子を伝える意見文を書こう。 ㊧ 資料をどう使えば、自分の考えが伝わる意見文が書けるだろうか。	つかむ・見通す	⑩	つかむ・見通す	1 単元のめあてと単元のゴールを確認する。 ㊦ 表現を工夫して、奄美のよさを伝えるパンフレットを作ろう。 ㊧ どんな工夫をすれば、奄美の魅力を伝えるパンフレットを作ることができるだろうか。	あ 必要感をもって課題に取り組めるように、共通のゴール、単元のめあてと単元のゴールを確認する。(協働)
あ 意見文を書くために資料を効果的に使いたいという意欲をもたせるために、学習計画を基に、本時の学習課題を確認する。(個最)	2 学習課題を確認する。 資料を使うことのよさを知る。				あ パンフレットを書くために表現を工夫したいという意欲をもたせるために、学習計画を基に、本時の学習課題を確認する。(個最)	
あ 必要性をもって課題に取り組めるように、気付いたことに着目させ、全体で本時のめあてを引き出せるようにする。(個最)	3 気付いたことを話し合う。  ・資料ってどんなものかな？ ・資料がある文とない文ではどう違うのかな？				あ 必要性をもって課題に取り組めるように、気付いたことに着目させ、全体で本時のめあてを引き出せるようにする。(個最)	
あ 課題解決に適した方法を個々で選択・決定できるように、全体で見通しをもたせる。(個最)	4 本時のめあてを立てる。 資料を使うことで、どのようなよさがあるだろうか。				あ 課題解決に適した方法を個々で選択・決定できるように、全体で見通しをもたせる。(個最)	
え 解決の方法をイメージしやすいように、今までの学習で使ってきた解決法を思い出させる。(個最)	5 見通しをもつ。 <答えの予想>  ・内容を理解しやすくなるかもね。 ・説得力のある文になりそう。 <解決の方法の予想> ・教科書の文を見てみるといいかもね。 ・資料がある文とない文を比べてみていいかも。				え 解決の方法をイメージしやすいように、今までの学習で使ってきた解決法を思い出させる。(個最)	
え 自分の自力解決の方法や考えの表現の仕方で最適なものを選択できるようにワークシートやタブレット、拡大資料を準備する。(個最)	6 自力解決をする。 ・自力解決の方法を選択し、考える。 (教科書・ワークシート・タブレット・拡大資料)				え 自分の自力解決の方法や考えの表現の仕方で最適なものを選択できるようにワークシートやタブレット、拡大資料を準備する。(個最)	
え 資料からわかったこと、資料を見て考えたことの区別がつくように、文末に気をつけて教材を読ませる。(個最)	7 友達と考えを共有する。 ・自分の意見を発表したり、友達の良いところを見付けアドバイスをし合ったりしながら、資料を使うよさを考える。 (黒板、ホワイトボード)				え 表現の工夫に気付くことができるように、書き出しや文末の表現に着目させる。(個最)	
え 自力解決が難しい子供には、着目させたい箇所を伝え、どんな効果があるかを考えさせる。(個最)	8 自分や友達の考えから共通点を見つけ出し、まとめをする。 文章を分かりやすくしたり、説得力をもたせたりする効果がある。				え 自力解決が難しい子供には、着目させたい箇所を伝え、どんな効果があるかを考えさせる。(個最)	
あ・え 早く解決できた児童には、どうすればよいか考えさせ、児童に活動をゆだねる。(個最)	9 資料を効果的に活用して、文章書くことができるような問題に取り組む。				あ・え 早く解決できた児童には、どうすればよいか考えさせ、児童に活動をゆだねる。(個最)	
い まとめへとつないでいけるように、気づいたことや考えたことの共通点を出し合い、まとめへとつなげていく。(協働)	10 振り返り・交流をする。 ・学習支援アプリを使って振り返りをさせ、全体で振り返りを共有する。				い まとめへとつないでいけるように、気づいたことや考えたことの共通点を出し合い、まとめへとつなげていく。(協働)	
あ 習得した考えを、意見文を書くことに生かせるように、問題に取り組んで定着を図る。(個最)		あ 習得した考えを、パンフレット作りに生かせるように、問題に取り組んで定着を図る。(個最)				
い・う それぞれの振り返りを視覚的に捉えやすいように、学習支援アプリを活用して振り返りを行う。掲示を行うことで、さらに異学年間の交流を深めていく。(協働)		い・う それぞれの振り返りを視覚的に捉えやすいように学習支援アプリ、を活用して振り返りを行う。掲示を行うことで、さらに異学年間の交流を深めていく。(協働)				